

# 日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	曜日	講時	頁
日本語教育学概論	日本語と日本語教育	2	才田 いずみ	3	火	3	1
日本語教育学概論	日本語教育の基礎	2	才田 いずみ	4	火	3	2
現代日本論概論	現代日本における家族	2	田中 重人	3	火	2	3
現代日本論概論	現代日本における職業	2	田中 重人	4	火	2	4
日本語教育学基礎講読	外国語学習と習得	2	才田 いずみ	3	月	5	5
日本語教育学基礎講読	日本語教育文法	2	小河原 義朗	4	月	5	6
現代日本論基礎講読	本を読む	2	田中 重人	3	火	1	7
現代日本論基礎講読	論文作成の基礎	2	田中 重人	3	金	2	8
現代日本論基礎講読	研究法入門	2	田中 重人	4	金	2	9
日本語教育学各論	学習者と社会	2	島崎 薫	6	火	3	10
日本語教育学各論	日本語教育方法論概説	2	衣川 隆生	集中(5)			11
日本語教育学各論	コミュニケーションのための日本語教育文法	2	野田 尚史	集中(6)			12
日本語教育学講読	中間言語語用論	2	才田 いずみ	6	月	2	13
日本語教育学演習	コンピュータ利用と日本語教育	2	才田 いずみ	5	火	4	14
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラムの評価	2	小河原 義朗	6	火	4	16
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原 義朗	5	金	3	17
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	小河原 義朗	5	水	3、4	18
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	小河原 義朗	6	水	3、4	19
現代日本論講読	現代日本論論文講読	2	田中 重人	5	金	4	20

# 日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	曜日	講時	頁
現代日本論演習	質問紙調査の基礎	2	田中 重人	5	水	2	21
現代日本論演習	調査的面接の基礎	2	田中 重人	6	水	2	22
現代日本論演習	統計分析の基礎	2	田中 重人	5	木	2	23
現代日本論演習	実践的統計分析法	2	田中 重人	6	木	2	24

**科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)**

**曜日・講時：**前期 火曜日 3講時

**semester：3, 単位数：2**

**担当教員：**才田 いずみ (教授)

**講義コード：**LB32302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN205J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

日本語と日本語教育

**2. Course Title (授業題目)：**

Introduction to the Teaching of Japanese as a Foreign Language

**3. 授業の目的と概要：**

- 1) 日本語の音声・文法・文字等の言語要素について、その構造や体系を知る。
- 2) 日本語を学ぶ人々に対して、上記の情報をどう提示するかを考える。
- 3) 日本語教育の置かれた社会的状況についても学ぶ。

**4. 学習の到達目標：**

日本語のしくみや特徴を再認識すると同時に日本語教育への理解を深める。  
自らの日本語使用や日本語能力を振り返る。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション  
授業の進め方について
2. 日本語の音声(1)
3. 日本語の音声(2)
4. 学習者の音声(1)
5. 学習者の音声(2)
6. 日本語の文字と表記(1)
7. 日本語の文字と表記(2)
8. 用言の活用と学習者の習得(1)
9. 用言の活用と学習者の習得(2)
10. 用言の活用と学習者の習得(3)
11. 初級の文型と語用論(1)
12. 初級の文型と語用論(2)
13. 学ばれにくい日本語の構文(1)
14. 学ばれにくい日本語の構文(2)
15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

筆記試験 [70%]・平常点(発言・クラス参加度・授業中の課題) [30%]

**7. 教科書および参考書：**

参考書：小林ミナ(2010)『日本語教育能力検定試験に合格するための 教授法 37』アルク。  
佐藤武義編著(1996)『展望 現代の日本語』白帝社、ほか。

**8. 授業時間外学習：**

配布したプリントを見直すなどの復習をする。  
授業で扱った問題に関して、周囲の日本人の日本語使用を観察する。  
参考書を読む。

**9. その他：**

3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

**科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)**

**曜日・講時：**後期 火曜日 3講時

**semester：4, 単位数：2**

**担当教員：**才田 いずみ (教授)

**講義コード：**LB42302, **科目ナンバリング：**LHM-LIN205J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

日本語教育の基礎

**2. Course Title (授業題目)：**

Basics in Teaching of Japanese as a Foreign Language

**3. 授業の目的と概要：**

- 1) 機能(function)や概念(notion)をはじめ、シラバスデザインに関わる基本要素について学ぶ。
- 2) 主要な外国語教授法について知る。
- 3) 学習者の日本語や授業のあり方など、日本語コースをめぐる諸要素の評価について知る。
- 4) 設定された課題について、グループで授業活動を組み立て、短い模擬授業を行う。

**4. 学習の到達目標：**

日本語教育における学習と教育に関して、基礎的な知識を得る。  
教授法理論と授業の組み立て方について学んだ知識を使ってみる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション  
授業の進め方  
文法項目と機能
2. カリキュラムとシラバス
3. シラバスデザインとコースデザイン
4. 教授法とその理論：最近注目されている授業 1
5. 教授法とその理論：最近注目されている授業 2
6. 教授法と教室活動 1
7. 教授法と教室活動 2
8. 教授法の歴史的変遷
9. 特色ある教授法
10. 模擬授業の組み立て
11. 模擬授業の実践 1
12. 模擬授業の実践 2
13. 模擬授業の実践 3
14. 学習者へのフィードバックと評価
15. 全体のまとめ

**6. 成績評価方法：**

筆記試験 [40%]・レポート [30%]・平常点（発言およびクラス参加度，授業課題） [30%]

**7. 教科書および参考書：**

参考書：小林ミナ (2010) 『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法 37』アルク。  
D.A. ウィルキンズ (1984) 『ノーショナルシラバス』桐原書店/オックスフォード。  
川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房。  
国際文化フォーラム (2013) 『外国語学習のめやす』

**8. 授業時間外学習：**

授業時に配布したプリントを復習する。  
参考書を読む。  
模擬授業の実施については、グループメンバーと相談して案を練り、授業に必要なものを用意する。

**9. その他：**

原則として3semesterの日本語教育学概論「日本語と日本語教育」を受講済みであること。  
3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：現代日本論概論／ Study of Contemporary Japan (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB32202, 科目ナンバリング：LHM-LIN206J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

現代日本における家族

**2. Course Title (授業題目)：**

Family in Japan

**3. 授業の目的と概要：**

「家族」をめぐる問題は、さまざまな学問領域で研究対象となっています。この授業では、社会学を中心に、法学・経済学・人口学などにおける家族研究の成果を概観したうえで、現代日本社会における家族問題について考えます。トピックとしては、親族関係の分析、家族の形態と制度、結婚と離婚、出生と育児、ライフコースからみた家族、人口変動と家族などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課したり、各自の役割分担にしたがって調べたことを互いに教えあう活動をするこも

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 家族研究の基礎的な概念と理論を理解する；
- (2) 実証的データに基づいて現代日本における家族の現状を把握する

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- イントロダクション
- 親族と家族
- 家族の法：報告と討論
- 家族の法：まとめ
- 法律情報の調べかた
- 人口学の考えかた
- 結婚と出生
- ここまでの復習と進度確認課題
- ライフサイクルの変化
- 家族変動
- レポート内容について面談
- 家族の経済学
- 全体のまとめとレポート内容についての討論

**6. 成績評価方法：**

授業中の課題と宿題 (65%)、期末レポート (35%) を合計して評価する。

**7. 教科書および参考書：**

【教科書】神原文子 (ほか編) (2016) 『よくわかる現代家族』 (第2版) ミネルヴァ書房。【参考書】利谷信義 (2010) 『家族の法』 (第3版) 有斐閣。藤見純子・西野理子 (2009) 『現代日本人の家族』 有斐閣。京極高宣・高橋重郷 (2008) 『日本の人口減少社会を読み解く』 中央法規出版。湯沢雍彦・宮本みち子 (2008) 『データで読む家族問題』 (新版) 日本放送出版協会。

**8. 授業時間外学習：**

毎回の課題・宿題とレポート作成

**9. その他：**

授業中の課題遂行のため、携帯用通信機器や電子辞書の持ち込みを推奨する。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論概論／ Study of Contemporary Japan (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB42203, 科目ナンバリング：LHM-LIN206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代日本における職業

2. Course Title (授業題目)：

Work in Japan

3. 授業の目的と概要：

職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また、法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課すこともあります。

4. 学習の到達目標：

現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 労働統計(1) さまざまな働きかた
- 労働統計(2) 賃金と労働時間
- 雇用をめぐる法と政策
- 外部労働市場と内部労働市場
- 企業の人事管理と労働者のキャリア
- ここまでの復習と進度確認課題
- 社会階層と職業
- 社会移動と職業・教育
- ジェンダーと労働
- 社会的不平等と職業
- 課題再提出と進度確認課題
- 課題返却と講評

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題によって評価する。

7. 教科書および参考書：

【参考書】厚生労働省 (2017) 『知って役立つ労働法』。

労働政策研究・研修機構 (2010) 「特集：初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597。

宮本太郎 (2009) 『生活保障』岩波書店。

犬塚先 (編) (2003) 『新しい産業社会学』(改訂版) 有斐閣。

嵩さやか・田中重人 (編) (2007) 『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会。

8. 授業時間外学習：

各回の課題・宿題

9. その他：

受講者は、3セメスタ開講の現代日本論概論「現代日本における家族」を履修しているか、それと同等の知識を習得済みであることが望ましい。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LB31506, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

外国語学習と習得

2. Course Title (授業題目)：

Foreign Language Learning and its Acquisition

3. 授業の目的と概要：

- 1) 応用言語学の分野の基本的な英文文献を読み、言語習得・外国語習得についての基本的な考え方や重要な研究成果を知る。
- 2) 外国語を学ぶことのメカニズムやそれに関係する諸要素についての知識を得るとともに、よりよい外国語学習のあり方についても考える力をつける。

4. 学習の到達目標：

- 1) 言語習得や言語教育の分野の研究に必要な概念や用語に親しむ。
- 2) 第一言語習得と第二言語習得の共通点、相違点を知る。
- 3) 学習者にとって外国語を学ぶという行為がどのようなものであるのかを知る。
- 4) 外国語学習の授業のあり方について自分の考えを明確化する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業を進める方法については、初回授業で受講者と相談して決定するが、担当教員の提案は以下の通り。

- ・教科書として提示した英文文献を1週または2週に1章のペースで読み進める。
- ・毎回各章の内容を問うタスクシートを与えるので、受講者はそれに従って各自予習をする。
- ・授業では小グループで予習結果を確認しつつ、教科書に掲載されている問題について考えたり、自分たちの抱いた疑問点について考えたりする。さらに、自らの外国語学習経験などと記載内容を照らし合わせながら、内容についてディスカッションを行い、理解を深める。
- ・グループで話し合っても解決できない点があれば、教員に尋ねたりクラス全体で考えたりする。

1. 授業のガイダンス

授業の進め方の決定、次週以降の担当の決定。

2. Chapter 1 の内容について話し合う。

予習でよく理解できなかった点については相互に質問し合って確認する。

(以下、方法は毎回同じ)。

3. Chapter 2

4. Chapter 3 の前半

5. Chapter 3 の後半

6. Chapter 4 の前半

7. Chapter 4 の後半

8. Chapter 5 の1回め

9. Chapter 5 の2回め

10. Chapter 5 の3回め

11. Chapter 6

12. Chapter 7 の前半

13. Chapter 7 の後半

14. Chapter 8

15. Conclusion とまとめ

全体を読んだ段階で、第二言語習得について理解したこと、疑問に思ったことなどについて話し合う。

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・「授業課題およびクラス貢献度」 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：Brown, Steven and Larson-Hall, Jenifer (2012) "Second Language Acquisition Myths: Applying second language research to classroom teaching". Ann Arbor: The University of Michigan Press.

8. 授業時間外学習：

毎回配布するタスクシートを用いながら、定められた範囲を予習する。授業進行の担当者となったときには、テキストの内容で皆がつかずきそうな箇所について、関連文献を調べて説明できるようにしてくる。

9. その他：

3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗 (准教授)

講義コード：LB41506, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

日本語教育文法

**2. Course Title (授業題目)：**

Pedagogical Grammar in Japanese language

**3. 授業の目的と概要：**

日本語を教えるために必要な日本語文法の基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。授業は、毎回提示されるトピックに関する課題に答えるために、次のような活動を通して進める。(1)課題に対する考えをまとめる。(2)個別、または協働して課題を解く。(3)担当資料、課題に対する解を共有、発表し合い、全体で議論する。(4)課題に対する解について改めてまとめる。

**4. 学習の到達目標：**

- (1)日本語教育のための文法の基礎を理解し、説明できる。
- (2)基礎的な文法知識を使って日本語を分析することができる。
- (3)文法を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション・学習者の文法
2. 品詞(1)
3. 品詞(2)
4. 文の構造
5. 格助詞
6. 主題化
7. 自動詞と他動詞
8. ヴォイス
9. テンス
10. アスペクト
11. ムード
12. 複文
13. 文章と談話
14. 文法を教える
15. まとめと期末テスト

**6. 成績評価方法：**

期末テスト 30%・クイズ 40%・授業参加度 30%

**7. 教科書および参考書：**

授業内で指定、または配布する。

**8. 授業時間外学習：**

毎回提示される課題に取り組むために個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

**9. その他：**

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：現代日本論基礎講読／ Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB32105, 科目ナンバリング：LHM-LIN214J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

本を読む

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading Books

**3. 授業の目的と概要：**

受講者の関心にしたがって本を選び、読み取った内容について教員と議論します。どのような本をどの程度のペースで読むかは受講者によって個別に決めますが、およそ新書 1 冊を 2 週間で読む程度の進度を標準とします。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 学術的な書物を読めるようになる
- (2) 読んだ内容について議論し、理解を深める

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業開始時にどのような本をどれくらいのペースで読むかを決め、それにしたがって読み進めます。2 週間に 1 回程度、教員と個別に面談し、読み取った内容についての報告と議論をおこないます。

**6. 成績評価方法：**

面談時の報告・議論の内容による

**7. 教科書および参考書：**

なし

**8. 授業時間外学習：**

読む本を自分で選定し、面談時まで読んで理解し、報告を作成する

**9. その他：**

受講希望者が多い場合には、受講者数の制限をおこなう可能性があります。授業時間割では火曜 1 講時を指定してありますが、この時間の授業は初回のみです。2 回目以降は、受講者それぞれに面談時間を決めます。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論基礎講読／ Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB35204, 科目ナンバリング：LHM-LIN214J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

論文作成の基礎

**2. Course Title (授業題目)：**

Basics of Academic Writing

**3. 授業の目的と概要：**

大学での研究（たとえば授業での課題，レポート，卒業論文など）で要求される文章は、高等学校までの「作文」とは本質的にちがいます。研究の文章には、(1) データに基づいた論理的な推論を中心とする、(2) 論理構造に沿った章立てや段落分けが重要である、(3) 誤解をまねかないよう正確に書かなければならない、(4) 先人の業績と自分の意見とを区別しなければならない、(5) そのために文献参照の規則がこまかく定められている、といった特徴があります。この授業では、これらのルールを学ぶと同時に、実際に論文を執筆し、受講者相互の批評をとおして執筆のプロセスを習得します。

**4. 学習の到達目標：**

大学での研究に必要な文章の書きかたを習得する

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- イントロダクション
- 論文の基本形
- パラグラフ
- 文と文をつなぐ
- 構文解析
- 構想・立案・材料の準備
- 草稿を読む
- 記号などの用法
- データを簡潔に表現する；中間レポート提出
- 科学的文体
- 書誌情報の利用
- 中間レポートの返却と講評；期末レポートについて面談
- 文献参照の種類と方法
- 公表文書の倫理
- 全体のまとめ；期末レポート執筆に向けて討論

**6. 成績評価方法：**

授業中の課題と宿題（40%）、中間レポート（20%）、期末レポート（40%）を合計して評価する。

**7. 教科書および参考書：**

【教科書】木下是雄（1981）『理科系の作文技術』中央公論社。

**8. 授業時間外学習：**

毎回の課題とレポート作成

**9. その他：**

日本語教育学研究室で卒業論文を執筆するためには、論文の書きかたを習得していることが必要条件になるので、同研究室所属の学部生は必ず受講すること。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論基礎講読／ Study of Contemporary Japan (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB45205, 科目ナンバリング：LHM-LIN214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

研究法入門

2. Course Title (授業題目)：

Academic Study Skills

3. 授業の目的と概要：

「研究」とは、答えるに値する問いをみつけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。書籍・雑誌・マスメディアなどからの資料収集と読解、情報整理とアイデア創出、発表と討論の技術のほか、書店や図書館などの施設の利用方法も学びます。

4. 学習の到達目標：

知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 「研究」とは何か
- 卒業論文・修士論文について発表
- 図書館見学実習
- 本を読む (1)：速読
- 書店実習
- 本を読む (2)：批判と議論
- 研究テーマについて面談
- 本を読む (3)：精読
- アイディアの創出
- アイディアの交換
- プロジェクトとしての研究
- 議論を組み立てる
- 期末レポートについて面談
- 発表会
- 口頭試問

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題 (50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問 (50%：主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)

7. 教科書および参考書：

【教科書】佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』 (第2版) 慶應義塾大学出版会。

8. 授業時間外学習：

各回の課題のほか、各自のレポート作成のための研究活動をおこなう

9. その他：

受講人数や各種施設の利用期日などによって授業計画を変更する可能性があります。

また、授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：島崎 薫（講師）

講義コード：LB62302, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

学習者と社会

**2. Course Title (授業題目)：**

Japanese language learners and society

**3. 授業の目的と概要：**

日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る
- (2) 日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる
- (3) 学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる
- (4) グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

オリエンテーション・自己紹介

学習者と社会をつなぐ実践に関する文献購読とそれに基づいたディスカッション

グループで学習者と社会をつなぐプログラムや活動をデザインするグループワーク

中間発表、最終発表

**6. 成績評価方法：**

参加態度 40%、プログラムデザイン（グループプロジェクト）30%、最終レポート 30%

**7. 教科書および参考書：**

授業内で適宜配布予定

**8. 授業時間外学習：**

授業時間外でグループ活動をする必要があります。

**9. その他：**

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中(5), 単位数：2

担当教員：衣川 隆生 (非常勤講師)

講義コード：LB98819, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語教育方法論概説

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Education Methodology

3. 授業の目的と概要：

- (1) 言語教育のパラダイムシフトの要因となった社会的背景、理論的背景の基本的な概念を理解し説明できるようになること、
- (2) 構成主義的教育観に基づいた学習環境をデザインし検証する基礎的な力を身につけることを目的として、講義においては(1)課題(資料講読・資料分析-事前課題を含む)、(2)課題の解釈の共有と発展、(3)自己評価を含む振り返りを行う。

4. 学習の到達目標：

1. 本講義で取り扱う以下の主要な概念について自己の学習経験、教育経験に照らし合わせて解釈を行い、説明できるようになる。
  - ・客観主義・実証主義
  - ・構成主義
  - ・能力観・学習観・教育観
  - ・学習ストラテジー
  - ・自律学習能力
  - ・メタ認知能力・メタ認知知識・メタ認知活動
2. 自律学習能力育成を目指した教育事例を分析、検討し、理論に基づいた教室活動、学習環境デザインを行うことができる。
3. 自分自身の概念理解、学習環境デザインについて振り返り、自己評価し、持続的学習の目標を設定することができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション・教室活動の体験
2. 教室活動の体験・振り返り
3. 言語教育のパラダイムシフト(1)
4. 言語教育のパラダイムシフト(2)
5. 構成主義(1)
6. 構成主義(2)
7. 構成主義・振り返り
8. 学習ストラテジー(1)
9. 学習ストラテジー(2)
10. 自律学習能力(メタ認知能力)(1)
11. 自律学習能力(メタ認知能力)(2)
12. 学習ストラテジー・自律学習能力・振り返り
13. 自律学習能力(メタ認知能力)を育てる教室活動・学習環境(1)
14. 自律学習能力(メタ認知能力)を育てる教室活動・学習環境(2)
15. 自律学習能力(メタ認知能力)を育てる教室活動・学習環境・振り返り

6. 成績評価方法：

課題(30%)、振り返り(40%)、自己評価(15%)、授業参加度(出席率と協働作業の貢献度により評価)(15%)

7. 教科書および参考書：

講義内で適宜指定、または配布する。

参考資料

佐々木倫子(2006)「パラダイムシフト再考」『日本語教育の新たな文脈-学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性』アルク, p. 259-283.

義永美央子(2008)「第二言語話者の「能力」-能力観の変遷と第二言語習得研究のパラダイム・シフト-」『CHAT Technical Reports』, No. 7, pp. 1-15., 関西大学人間活動理論研究センター

<<http://www.chat.kansai-u.ac.jp/publication>

8. 授業時間外学習：

講義内で指示する課題を行うこと。

9. その他：

資料購読と事前課題、授業では事前課題に基づく話し合い、振り返りを中心に進める。グループ・ワークに積極的に参加することを期待する。

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：集中(6), 単位数：2

担当教員：野田 尚史 (非常勤講師)

講義コード：LB98820, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

コミュニケーションのための日本語教育文法

**2. Course Title (授業題目)：**

Pedagogical Japanese grammar for communication

**3. 授業の目的と概要：**

日本語非母語話者のための日本語教材で文法がどのように扱われているかを分析するとともに、コミュニケーションを重視した日本語教材では文法をどのように扱うのがよいかを検討する。

具体的には、次のような観点から分析を行う。

- (1) 現行の日本語教材での文法の扱い
- (2) 日本語教材の文法と日本語非母語話者が必要な文法の違い
- (3) コミュニケーションを重視した日本語教材に必要な文法
- (4) コミュニケーションを重視した日本語教材の具体例

**4. 学習の到達目標：**

- (1) さまざまな日本語教材での文法の扱いを分析できるようになる。
- (2) 日本語教材の文法と日本語非母語話者が必要な文法の違いを分析できるようになる。
- (3) コミュニケーションを重視した日本語教材に必要な文法を考えられるようになる。
- (4) コミュニケーションを重視した日本語教材の具体例を考えられるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション (コミュニケーションのための日本語教育文法とは)

【日本語教科書で取り上げられる文法】

2. 初級教科書で取り上げられる文法項目
3. 初級教科書で取り上げられる文法項目の順序
4. 中級教科書で取り上げられる文法項目

【日本語教科書の文法と日本語学習者が必要な文法の違い】

5. 日本語教科書の文法と現実の日本語の違い
6. 日本語教科書の文法とコミュニケーションに必要なことの違い
7. 日本語教科書の文法と習得状況の違い

【コミュニケーションのための日本語教育文法に必要な視点】

8. 日本語教育の「常識」は絶対的なものではない
9. コミュニケーションに必要な日本語とは？
10. 一人ひとりの学習目的や母語を考える

【コミュニケーションのための日本語教育文法の具体例】

11. 「聞く」コミュニケーションのための教育
12. 「話す」コミュニケーションのための教育
13. 「読む」コミュニケーションのための教育
14. 「書く」コミュニケーションのための教育

15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

レポート 70%, 授業参加度(調査課題の発表を含む) 30%

**7. 教科書および参考書：**

野田尚史(編)『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版, 2005年.  
野田尚史(編)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版, 2012年.  
新屋映子・姫野伴子・守屋三千代『日本語教科書の落とし穴』アルク, 1999年.  
森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房, 2011年.  
山内博之『プロフィジェンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房, 2009年.

**8. 授業時間外学習：**

日本語教科書についての調査を中心に調査課題を出すので、授業時間外に各自が調査をしていくことが必要。

**9. その他：**

ウェブサイト：<http://www.nodahisashi.org>

メールアドレス：[noda.hisashi@ninjal.ac.jp](mailto:noda.hisashi@ninjal.ac.jp)

科目名：日本語教育学講読／ Teaching of Japanese Language (Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LB61205, 科目ナンバリング：LHM-LIN317J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中間言語語用論

2. Course Title (授業題目)：

Interlanguage Pragmatics

3. 授業の目的と概要：

中間言語語用論に関する文献の講読を通じて、語用論の基礎を学ぶ。

日本語の文献を講読するが、必要に応じて英文文献も参照する。

授業の進め方については、初回に受講者と相談して決定するが、3~4人程度の小グループを単位としてグループワークで実施する。

4. 学習の到達目標：

語用論の基礎を学び、用語を理解する。

学習者の目標言語の発達過程や母語との関係などについての知識を得る。

読み取った内容をわかりやすく説明することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の進め方：3~4人程度の小グループを編成し、グループワークで進める。

教員の提案する進め方は以下のとおりであるが、具体的な進め方は受講者と相談して決定する。

案1

・グループごとにローテーションで発表者（レポーター）役と指定討論者（ディスカッサント）役を務める。  
・指定討論者グループは、発表者グループとは独立に予習を行い、重要なポイントやわかりにくい点などについて、発表者に対して確認・質問をする。

・発表者グループは、協力し合ってわかりやすいレジюмеを作成し、それを言いながら、授業を進める。質問等に答えるだけでなく、受講者に対して質問を発し、考えさせるなど、全員を授業に参加させる工夫ある授業進行が要求される。

案2

・3~4人のグループの中で発表者と指定討論者を決め、全員が予習をしてきた上で、授業では発表者の作成したレジюмеをもとに、指定討論者を中心に質疑やディスカッションを行いながら読み進める。

進度は以下のとおり。

1. 授業の進め方の決定とイントロダクション
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章 (1)
5. 第3章 (2)
6. 第4章 (1)
7. 第4章 (2)
8. 第5章 (1)
9. 第5章 (2)
10. 第5章 (3)
11. 第6章
12. 第7章 (1)
13. 第7章 (2)
14. 第8章
15. まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート 40%, 発表者役と授業進行とレジюме作成 20%, 指定討論者役 20%, その他の授業貢献 10%, 出席 10%

7. 教科書および参考書：

教科書：清水崇文 (2009) 『中間言語語用論概論：第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク。

8. 授業時間外学習：

教科書を予習すること。

読んでわからない点を整理し、わからないことについては、関連文献を調べたりすること。あるいは、授業で発表者グループに質問できるようにしておくこと。

9. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

発表者役や指定討論者役を務めるときには、グループ内でよく協力して準備すること。準備を欠席したり、当日の授業をメンバーに無断で欠席するなどの迷惑行為は慎むこと。

**科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)**

**曜日・講時：**前期 火曜日 4 講時

**semester：**5, **単位数：**2

**担当教員：**才田 いずみ (教授)

**講義コード：**LB52406, **科目ナンバリング：**LHM-LIN318J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

コンピュータ利用と日本語教育

**2. Course Title (授業題目)：**

ICT and Japanese Language Learning

**3. 授業の目的と概要：**

テクノロジーの進歩により、我々の日常生活にもネットワーク通信が盛んに組み込まれ、教育・学習場面においても ICT (Information Communication Technology: 情報通信技術) の利用が当たり前のことになってきている。こうした教育学習環境で行われる日本語教育・日本語学習はどのようなものであり得るだろうか。

日本語授業にパソコンやモバイル機器を持ち込み、情報通信テクノロジーを生かした授業をデザインするとき、どのような学習活動が可能になるかを多角的に考える。

同時に、ICT のもたらす効果が「見せかけの効果」になっていないか、活動デザインを評価する視点の獲得も目指す。

**4. 学習の到達目標：**

1. ICT を日本語授業に活用するとき、どのような利用法があるのかを知る。
2. 授業への ICT 利用の利点と欠点を意識できるようになる。
3. 授業の目的や学習者、通信環境などを考慮して、効果的に ICT を利用した授業活動がデザインできるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業は、個人活動とグループ活動を組み合わせて実施する。

1. オリエンテーション

受講者各自の教育・学習での ICT 利用体験について話し合う。

2. 日本語授業における ICT 利用の調査 1

受講者各自が日本語授業における ICT 利用の事例を調査・収集する

3. 日本語授業における ICT 利用の調査 2

小グループで収集した事例を持ち寄り、分類・分析する。

グループの分類基準から導かれる項目に該当事例のない項目があれば、

そこに当てはまる利用法を考え、次回までに類似の事例を探索してくる。

4. 各グループの調査結果の発表

全体を通して分類方法のバリエーションを把握する。

事例の多寡の示すところを考える。

5. 日本語教育における ICT 利用：理論と実際 1

6. 日本語教育における ICT 利用：理論と実際 2

7. 目的別の ICT 利用 1

インプットかアウトプットか、技能統合的な活動をするのか、個人活動か協働活動かなど、受講者と話し合った上で学習目的を絞り、グループあるいは個人で、目的に合致した授業での ICT 利用をデザインする。

グループで実施する場合には、グループの構成員全員が同一学習者群に対して目的の異なる授業を分担して考える。

グループ内での発表・検討を行った上で、クラス全体に対して発表する。

(以下、10 回目まで同様の活動が続く)

8. 目的別の ICT 利用 2

9. 目的別の ICT 利用 3

10. 目的別の ICT 利用 4

11. アクティブ・ラーニングと ICT

12. 自律学習と遠隔学習

13. ICT 利用とクラスコントロール

14. ICT 利用の評価とオルタナティブ

15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

期末課題 40%・授業の個人課題 30%・グループ課題への貢献 20%・出席と参加度 10%

**7. 教科書および参考書：**

参考書：国際文化フォーラム (2013) 『外国語学習のめやす』

教育工学会編 『教育工学事典』

鈴木克明 2002. 『教材設計マニュアル：独学を支援するために』北大路書房。

鄭仁星・久保田賢一 (編著) 2006. 『遠隔教育と e-ラーニング』北大路書房。

三宅なほみ 1997. 『インターネットの子どもたち』岩波書店。ほか

**8. 授業時間外学習：**

授業では、グループでの方向性の話し合いや、各自のデザインについての検討は行うが、課された個人課題やグループ課題については、授業時間外に必要な先行研究の検討や調査、実現可能性のチェックなどを行って、課題に応える案を作成すること。また、授業内での発表も予定されるので、わかりやすいプレゼンテーションの準備も行うこと。

**9. その他：**

特段の理由なく3回欠席した場合には単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗 (准教授)

講義コード：LB62407, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

日本語コースカリキュラムの評価

**2. Course Title (授業題目)：**

Japanese Language Course evaluation

**3. 授業の目的と概要：**

日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。
- (2) 様々な評価の方法について理解し、説明できる。
- (3) 日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. コースデザイン
3. コースカリキュラムの評価(1)
4. パフォーマンス評価
5. コースカリキュラムの評価(2)
6. ルーブリック評価(1)
7. ルーブリック評価(2)
8. コースカリキュラムの評価(3)
9. 伝統的評価と代替的評価
10. テストによる評価(1)
11. テストによる評価(2)
12. スタンダードの分析(1)
13. スタンダードの分析(2)
14. ポートフォリオ評価
15. バックワード・デザインとまとめ

**6. 成績評価方法：**

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

**7. 教科書および参考書：**

授業内で指定、または配布する。

**8. 授業時間外学習：**

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

**9. その他：**

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：小河原 義朗 (准教授)

講義コード：LB55306, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

話し言葉の教育

**2. Course Title (授業題目)：**

The teaching of oral language skills in a Japanese language course

**3. 授業の目的と概要：**

学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。
- (2) 目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション
2. コミュニケーション活動 1
3. コミュニケーション活動 2
4. 会話とは
5. 会話の分析
6. モデル会話 1
7. モデル会話 2
8. ロールプレイ 1
9. ロールプレイ 2
10. インタビュー 1
11. インタビュー 2
12. プレゼンテーション 1
13. プレゼンテーション 2
14. フィードバックと評価 1
15. フィードバックと評価 2

**6. 成績評価方法：**

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

**7. 教科書および参考書：**

授業内で指定、または配布する。

**8. 授業時間外学習：**

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

**9. その他：**

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

**科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)**

**曜日・講時：**前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

**セメスター：**5, **単位数：**2

**担当教員：**小河原 義朗 (准教授)

**講義コード：**LB53309, **科目ナンバリング：**LHM-LIN319J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

日本語コース運営の基礎

**2. Course Title (授業題目)：**

Designing a Japanese Language Course

**3. 授業の目的と概要：**

10月から運営する日本語コースを念頭におきながら、教科書分析および模擬授業とその検討を中心に、以下の内容を扱う。

- 1 語学学習環境としての「教室」のあり方
- 2 学習支援者としての教師のあり方
- 3 シラバス, 到達目標設定, 学習項目設定
- 4 授業見学の視点
- 5 授業活動デザイン
- 6 学習者の日本語

**4. 学習の到達目標：**

日本語コースを運営するための基礎的な知識と技能を養う。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. インTRODダクシヨN
2. 日本語初級用教科書の検討1
3. マイクロティーチング1, 日本語初級用教科書の検討2
4. マイクロティーチング2, 授業活動のデザインについて
5. 日本語初級用教科書の検討3
6. 模擬授業の実施
7. 模擬授業の振り返り
8. 日本語中級用教科書の検討1
9. 日本語中級用教科書の検討2, 授業活動のデザインの検討
10. 中級の模擬授業実施と振り返り1
11. 中級の模擬授業実施と振り返り2
12. 授業見学の視点, シラバスデザイン案の作成
13. 教師と学習者のあり方について, コース概要と学習者の募集, 役割分担
14. オリエンテーションの実施プラン作成, ニーズ調査・ブレイスメントテストの検討
15. まとめと6セメスターの日本語コースの開講準備

**6. 成績評価方法：**

レポート [40%]・出席 [10%]・その他 (「発表態度」「クラス貢献度」「ジャーナル」) [50%]

**7. 教科書および参考書：**

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク  
坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ  
西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版  
文化外国語専門学校編(2000)『新文化初級日本語I』凡人社.  
筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』Notes vol.1-3, Drill vol.1-3 凡人社.  
川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日

**8. 授業時間外学習：**

日本語の教科書を種々閲読し、内容や使用法について考える。  
マイクロティーチングや模擬授業の教案を立てて準備する。  
実施したマイクロティーチングや模擬授業について、問題点を洗い出し、改善策を考える。

**9. その他：**

日本語教育学概論, 3セメスター開講の日本語教育学基礎講読を含む関係科目を10単位以上履修済みまたは履修中のこと。  
6セメスター開講の日本語教育学実習も引き続き履修すること。  
全回授業に出席し、積極的に参加すること。  
時間外に、日本語授業見学と見学レポートを課す可能性があるので注意すること。

**科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)**

**曜日・講時：**後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

**Semester：6, 単位数：2**

**担当教員：**小河原 義朗 (准教授)

**講義コード：**LB63310, **科目ナンバリング：**LHM-LIN319J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**

日本語コースの運営と改善

**2. Course Title (授業題目)：**

Japanese Language Course: its Operation and Improvement

**3. 授業の目的と概要：**

実際に運営する日本語コースについて、以下の課題に取り組み、授業活動のデザイン力と実践力を養う。

教室研究と学習者研究の方法の基礎も身につける。

- 1 学習者の学習の状態を的確に把握する。
- 2 異文化接触の場としての日本語授業を意識する。
- 3 自分の教授スタイルに気づく。
- 4 授業を適切に評価し、改善策を講じる。
- 5 授業分析の方法を知り、実践する。
- 6 コース全体を振り返りつつ、報告書を作成する。

**4. 学習の到達目標：**

日本語コースを運営しながら、シラバスの改変、授業の向上を考え、コース全体の改善を図る力をつける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. インTRODクシヨン, オリエンテシヨンの結果について
2. 日本語コース運営の方針について, 授業担当について, 授業報告と授業の予定 1
3. 授業報告と授業の予定 2, 教室活動のデザインとバリエーション
4. 授業報告と授業の予定 3, 教室活動の評価: その視点
5. 授業報告と授業の予定 4, 教室活動の評価と改善 1
6. 授業報告と授業の予定 5, 授業分析の方法 1
7. 授業報告と授業の予定 6, 学習者の観察
8. 授業報告と授業の予定 7, 授業分析の結果, 教室活動の評価と改善 2
9. 授業報告と授業の予定 8, 教師行動の分析: ティーチャートーク
10. 授業報告とまとめ, コースの振り返りと評価
11. 教室活動のバリエーション, シラバスの問題点
12. 授業分析の方法 2, 学習者の達成度の評価
13. 授業分析の方法 3, 教師行動の分析
14. 報告書の作成について, 日本語教育学実習全体についての振り返り
15. まとめ

**6. 成績評価方法：**

レポート [40%]・出席 [10%]・その他 (「コース運営」「授業報告」「クラス貢献度」「ジャーナル」「報告書作成」) [50%]

**7. 教科書および参考書：**

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク  
坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ  
西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版  
筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』凡人社。  
川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房, ほか。

**8. 授業時間外学習：**

授業の実施・見学などは時間外に行う。運営するコースは、夜間に片平キャンパスで行う予定。

授業分析についても、具体的な活動は時間外学習である。

**9. その他：**

5 Semesterの日本語教育学実習を履修済みのこと。

全回授業に出席し、積極的に参加すること。

教壇実習は夜間に実施する予定。

コースの運営・改善に関わるミーティングなども授業時間外に行われることがあるので、注意すること。

科目名：現代日本論講読／ Study of Contemporary Japan (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB55405, 科目ナンバリング：LHM-LIN320J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

現代日本論論文講読

**2. Course Title (授業題目)：**

Reading Seminar in Contemporary Japanese Studies

**3. 授業の目的と概要：**

研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1 論文を、(a) 鍵概念の抽出 (scanning)、(b) 構造の抽出 (skimming)、(c) 図表の解説、(d) ロジックの抽出、の 4 人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。

**4. 学習の到達目標：**

(1) 論文の探しかたと読みかたを理解する；(2) プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- インTRODakション
- 論文をさがす (1)：日本語文献
- 論文をさがす (2)：英語文献
- 論文の読みかた (1)：鍵概念と構造
- 論文の読みかた (2)：図表とロジック
- プレゼンテーションの準備
- 発表と質疑
- 論文ごとに担当者を決めてプレゼンテーション (各自 2 回以上)
- 録画視聴と振り返り
- 全体のまとめと講評

**6. 成績評価方法：**

授業中の課題と宿題 (30%)、担当部分のプレゼンテーション(40%)、プレゼンテーションに対する質疑応答 (30%)を合計して評価する。

**7. 教科書および参考書：**

【教科書】東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編／人文社会科学編。

【参考書】諏訪邦夫 (1995)『発表の技法』講談社。

**8. 授業時間外学習：**

毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと

**9. その他：**

授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論演習／ Study of Contemporary Japan (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB53206, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

質問紙調査の基礎

**2. Course Title (授業題目)：**

Basics of Questionnaire Survey

**3. 授業の目的と概要：**

質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。

**4. 学習の到達目標：**

(1) 質問紙調査の長所と短所を把握する；(2) 質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- イントロダクション
- 調査課題の設定
- 既存調査と先行研究の探索
- 調査対象者と調査方法
- 調査の企画
- 質問文と回答欄
- 調査実施について面談
- 調査票の構成
- 調査票の検討
- エディティングとコーディング
- データの入力と点検
- 報告書の執筆
- 調査結果発表会
- 全体のまとめとレポート執筆についての相談

**6. 成績評価方法：**

授業中の課題 (40%)、学期末に提出する質問紙 (30%)、調査結果に基づくレポート (30%) を合計して評価する。

**7. 教科書および参考書：**

【教科書】轟亮・杉野勇 (編) (2017) 『入門・社会調査法 [第3版]』法律文化社。

**8. 授業時間外学習：**

毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成

**9. その他：**

5 セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」を合わせて履修することが望ましい。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論演習／ Study of Contemporary Japan (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB63205, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

調査的面接の基礎

**2. Course Title (授業題目)：**

Basics of In-depth Interview

**3. 授業の目的と概要：**

面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。

**4. 学習の到達目標：**

- (1) 面接調査の長所と短所を把握する；
- (2) 面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- イントロダクション
- 研究のイメージをつかむ
- 調査的面接の方法
- シナリオの作成
- 面接実習
- 面接実習結果について検討
- 対象者の選びかた
- 調査計画について討論
- インタビュー実施から書き起こしまで
- 分析
- 報告書
- 発表会
- 調査的面接の倫理
- 全体のまとめとレポート執筆に向けての討論

**6. 成績評価方法：**

授業中の課題 (50%)、調査結果に基づく口頭発表とレポート (50%) を合計して評価する。

**7. 教科書および参考書：**

【教科書】松浦均・西口利文 (2008) 『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。

**8. 授業時間外学習：**

各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成

**9. その他：**

5 semester開講の現代日本論演習「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論演習／ Study of Contemporary Japan (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB54207, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

統計分析の基礎

**2. Course Title (授業題目)：**

Basics of Statistical Analysis

**3. 授業の目的と概要：**

意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。

**4. 学習の到達目標：**

(1) 統計分析の基礎を理解する；(2) データ分析ができるようになる

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- イントロダクション
- SPSS 入門
- 統計分析の基礎
- 度数分布表とグラフの利用
- クロス表分析の基礎
- 連関係数
- クロス表の解釈
- ここまでの復習と進度確認課題
- 平均と分散
- 平均値の比較
- 分散分析
- 推測統計の基礎と区間推定
- 統計的検定
- さまざまな検定手法
- 全体のまとめとレポート内容についての相談

**6. 成績評価方法：**

授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。

**7. 教科書および参考書：**

【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

**8. 授業時間外学習：**

毎回の課題とレポート作成の準備

**9. その他：**

実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本論演習／ Study of Contemporary Japan (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：**

実践的統計分析法

**2. Course Title (授業題目)：**

Statistical Analysis in Practice

**3. 授業の目的と概要：**

研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法をとりあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法をとりあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。

**4. 学習の到達目標：**

さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 推測統計の基礎
- 正規分布の利用
- 統計的検定と検定力
- 順位相関係数
- 積率相関係数
- 相関係数行列
- ここまでの復習と進度確認課題
- 符号検定
- 対応のある平均値の比較
- 多変量解析
- 全体のまとめとレポート内容について相談

**6. 成績評価方法：**

授業中の課題と宿題 (70%)、期末レポート (30%) を合計して評価する。

**7. 教科書および参考書：**

【教科書】吉田寿夫 (1998) 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

**8. 授業時間外学習：**

毎回の課題とレポート作成の準備

**9. その他：**

5セメスタ開講の現代日本論演習「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。